

“フツウ”だけど、断然、カッコいい！

話題沸騰の

normcore

「ノームコア」って、何？

文=中野香織

次々と新しいトレンドが生まれるアメリカで「ノームコア(normcore)」というキーワードが話題になっている。

これは「ノーマル」と「ハードコア」を組み合わせた造語で、いままできらびやかなセレブスタイルに身を固めていた人たちがごくごく“フツウ”の格好をし始めたというのだ。

撮影(モデル) = 川口賢典 (STOIQUE) 撮影(取材) = 中本浩平 スタyling=森岡弘 (GLOVE)
ヘア&メイク=右近了 (UNRU) モデル=Marco Sulima (GLOVE)

今 年2月末に「ニューヨーク・マガジン」が「次なるトレンド」を新語とともに紹介しました。

それに触発された記事を、あるニューサイトで書いたところ、またたくまにインターネットを駆けめぐり、すぐにまともなサイトまでできました。

ニューヨーク発の「ノームコア(Normcore)」です。ノーマル(Normal)とハードコア(Hardcore)を組み合わせて作られた造語で、いわば、「筋金入りのふつう」。ふつうの人がごくふつうに着るような、ふだん着。ブランドが一切表に出てこない、ファッションステイトメントのかけらもない、おそろしいほどにふつうの服。大衆のなかに完全に溶け込んでしまう、バリバリにふつうな装い。スタイルアイコンは、たとえば、ステイプ・ジョブズ。このような「ノームコア」なスタイルが今の時流に合うという感覚は、言葉の響きが快いこともあり、すっかりグローバルに普及した感があります。多くの人はせせら笑うでしょう。なんだ、オレ、とつくの昔に最先端だよと。

地球上の大半の人はなんの気負いもなく、昔も今もノームコアなのですが、このトレンドのポイントは、ファッション界のインサイダー周辺の人々がそのように装い始めたとい

うことでした。個性的でエッジが効いたファッショニスタが、集団に埋もれたファッショニスタが、集団に埋もれる「ふつう」がカッコいいと評価したことが新しかった。昨日までルブタンの靴をはき、グッチの新作ジャケットを着ていた人が、スニーカーにはきかえてグレイのパーカを着て表参道のカフェにいる、みたいなことなのです。タレントさんのオフですか？

見方によってはそれほどバカっぽい話なのですが、多くのファッショニスタがこのトレンドを支持し、広範囲で話題になったということに、興味を覚えます。

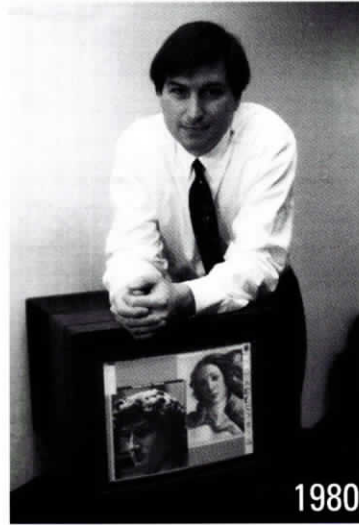
ファッションで個性を主張しようなどというプロパガンダが行き渡るあまり、見渡せば、どいつもこいつもおしやれで小ぎれいになり、結局、なんだか同じに見える。みんながみんなファッションに気を遣うあまり、かえって没個性になってしまふという皮肉。そんな砂漠のような虚しいファッションシーンに疲れ果てた人が、ファッションに無頓着な(と見える)ノームコアにほっと安心を覚えたのは無理からぬ話です。

そもそも、他人とは違うという個性の主張など、ほんとうに必要なものでしょうか？ それよりもこの「シエラ」の時代、大勢のなかに紛れ、多

無頓着のようで極める このジョブズの生き方がお手本



右の写真は1980年のジョブズの写真。ネクタイをしてビジネスマン風。
©The New York Times/アフロ 左は、2010年、「iPhone4」を
発表したときに撮られたもの。2011年、残念ながら、カリフォルニア
で亡くなる。©AP/アフロ



くの人々とつながり、同じ目線にな
かを共有することのほうが幸せなの
ではないか？「他とは違う自分」探
しに疲れ、いっそ無になりたい。そん
な感情の変化がこのトレンドの背後
に潜んでいるように感じていました。
ところが9月、「GAP」が開始

した秋のグローバルキャンペーンを
見て、「ふつう」志向がより進化した
形で世に問われていることを実感し
ました。テーマはなんと、「ドレス・
ノーマル(ふつうを着る)」。アンジェ
リカ・ヒューストン、エリザベス・
モスらのセレブリティが出演する
ムービーを手がけるのは、『セブン』
『ファイトクラブ』などのデヴィッ
ド・フィンチャー監督。なんと贅沢
で先鋭的な「ふつう」でしょうか。
「誰も見ていないかのように、装
う」、「服よりも、行動があなたを
表現する」といったタグラインとと
もに流れる映像から伝わってくるの
は、「ありのまま」の自信と解放感の
かっこよさとともに、その域に達す
ことの難しさ。ノームとは本来、
ものさしという意味です。社会のも
のさしを離れ、自分のものさしを見
つけること。それがドレス・ノーマ
ルのメッセージなのです。このよ
うな意味での「ふつう」を装うこと
は、一種のアートです。そこまで考
えてようやく、「ノームコア」のスタ
イルアイコンがステイプ・ジョブ
ズであったことに納得します。彼の
マニアックなものさしにかなう服、
それがイッセイミヤケのセーター
だったので、彼は何百着も同じもの
を作らせました。社会的基準から見
れば異常でも、それが彼にとっての

「ふつう」だったので。

歴史家の目でこの「ふつう」志向
のトレンドを眺めてみれば、アメリ
カらしい「ヒップ」の系譜に連なり
ます。ヒップとは、スラング辞典の
定義をかいつままで紹介すれば、「商
業的・政治的および物理的現実の
いつさいから離れ、社会的・道徳的
関わりからも自由な、真のアイデン
ティティを守ろうとすること」。まさ
に、社会がおしつけるものさしから
の独立と解放です。

ノーマルというのは、社会のもの
さしから独立し、解放された、あなた
自身のものさしに合っているという
こと。大衆に無難にとけこむことが
ものさしに合っていればそれもまた
よし。合っていないければそこから自
由になればよい。自分にとってのふ
つうとはなにか。自分のコア(核)と
向き合うべき哲学的なトレンド、そ
れがノームコアなのかもしれません。

中野香織
Kaori Nakano

エッセイスト・明治大学特任教授。
東京大学大学院修了、英国ケンブリッ
ジ大学客員研究員を経て文筆業。
過去2000年のファッション史から最
新モード事情まで幅広い視野から執
筆、講演を行う。監訳『シャネル、
革命の秘密』(ディスカヴァー21)、著
書『モードとエロスと資本』(集英社
新書)、『ダンディズムの系譜 男が
憧れた男たち』(新潮選書)ほか多数。